

ひなばと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～
vol. 31

2020年10月8日

ピピオ理事就任のご挨拶

今年度通常総会で、ピピオ子どもセンターの理事に就任しました。弁護士の寺西環江と申します。

私は、弁護士になって満 11 年を迎えます。私の弁護士人生は、ピピオと一緒に歩いてきたと言っても過言ではありません。

弁護士になって2か月目、2010年1月に、裁判所の前で、ご逝去された戸田理事から、「劇に出ないか」と誘われて、劇団ピピオの一員となりました。

その日から、ずっと、ピピオの誕生(最初の劇、設立に向けた準備、設立総会、ピピオ開所)、成長(日々の運営)に携わることができました。ピピオの中ではすっかり古株で、もう「若手」と名乗ることが苦しくなってきたので、今後は理事として、子ども達のことを深く考えるだけでなく、

子ども達を取り囲む様々な社会問題にも立ち向かっていきたいです。

今年は、新型コロナウイルスの流行により、世界中の人々が様々な苦境に立っています。特に、大人ほど大きな声を挙げられない子どもたちには、学校に行けない、友達と遊べないなど、たくさんのストレス、権利制限がありました。子ども達は、日本の未来を大切な存在です。私も、微力ながら、ピピオ子どもセンターの活動を通じて、子ども達が傷を治し、羽ばたいてくお手伝いがしたいです。

これからも、ピピオとともに歩き続けていきます。今後とも、ご指導よろしく願いいたします。

理事 寺西 環江

第10回通常総会のご報告

2020年度(第10回)通常総会が、新型コロナウイルス感染流行下の中、2020年6月6日午後2時から広島弁護士会館で開催され、正会員75名のうち委任状出席も含め53名の方が参加されました。

総会では、令和元年度事業報告及び収支決算の件、令和2年度の事業計画及び活動予算の件について、いずれも全員一致で議案のとおり決議、承認されました。また、当法人の新しい理事として、弁護士の寺西環江氏の選任が全員一致で承認されました。

明年、当法人は設立10周年を迎えることとなり、これまで様々な困難もありましたが、会員の皆様やスタッフ、ボランティアスタッフ、事務局、など多くの市民の皆様の支えと励ましで、活動を進めてくることができ、大変感謝しております。

設立10周年という節目を迎え、改めて困難を抱えた子どもたちに居場所を提供しその自立を支援していこうという私たちの活動を振り返り、さらに充実した活動ができるような体制を作り、子どものためのセーフティネット構築の一翼

を担っていけるよう検討していくとともに、これまでの取り組みを通して見えてきた子どもを取り巻く問題について発信していきたいと考えております。

総会では、参加者から、子どもシェルター「ピピオの家」の存在意義を改めて検証する必要があるのではないか、またそれと合わせて児童相談所などの関係諸機関と協議する必要があるのではないか、居場所のない子にシェルターが利用しやすいようSNSの活用はできないのか、などの意

見がだされました。

今後とも、私たちの活動を始めたころの思いを振り返り、さらに安定、かつ充実した活動を進めていきたいと考えておりますので、暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

今後とも皆さまの温かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

理事長 鵜野 一郎

■ NPO法人ピピオ子どもセンター 役員名簿

第10回通常総会における新たな役員の選任により、役員体制が次のとおりとなりました。

理事長	鵜野 一郎（弁護士）
副理事長	中本 忠子（NPO 法人食べて語ろう会理事長）
理事	磯辺 省三（広島文化学園大学特任准教授）
理事	上野 和子（NPO 法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長）
理事	大石 結加（広島県社会福祉士会 子ども家庭支援委員）
理事	掛 幸太（司法書士）
理事	桑原 正彦（小児科医）
理事	寺西 環江（弁護士）
理事	那須 寛（弁護士）
理事	蓮見 和章（弁護士）
理事	平谷 優子（弁護士）
監事	奥 兆生（公認会計士・税理士）

協力企業主をご紹介いただけませんか

私たちは、虐待などで居場所がなく困難を抱えた子どもに居場所を提供し、その子の気持ちを尊重しながらその後の自立を支援する活動を行っています。

私たちが支援する子の中には、ひとり暮らしをするため就労先を探したり、就労体験をさせたい子がおります。その際に、私たちの活動をご理解いただき、就労先の確保や就労体験先についてご相談にのってもらえる会社などを探しております。皆様の関係先でそのような会社

などがありましたら、ご紹介いただきたいと思います。

ご紹介先には、改めてこちらから訪問させていただき、私たちの活動のご説明やご協力をお願いをさせていただきたいと考えております。

ご紹介先があれば、事務局までご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

理事長 鵜野 一郎

スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのTです。

私は、今年度から「ピピオの家」のスタッフになりましたが、実際の勤務の前に、岡山の「子どもシェルター モモ」へ2泊3日の研修に行きました。初日は施設概要等の説明と通院同行をした

後、入居児童として生活体験を行い、2日目・3日目は職員体験を行いました。研修で特に深く考えたことは、当事者視点に立つことの重要性についてです。

生活体験をした際に、「夕食まで自由に過ごし

て下さい」と言われ部屋に入りました。知らない家具の並ぶ部屋を見渡し、「自由に過ごす」ってどうしたらいいのだろう」と、戸惑いました。そして、「自分の部屋」だと思するには、いくらか時間がかかること。自分で使うために選んだ食器や箸、コップ、誰でも観ることの出来るテレビ等、家の中のものを使うことに躊躇すること。他者の行動が気になり、常にアンテナを張って過ごしている自分がいることに気が付きました。

私はこれまで、児童福祉施設でアルバイトや実習を行ったことはありましたが、生活体験をした経験はありませんでした。知らない場所で新たな生活を始める児童が、どのような気持ちで初日を過ごすのか、身を持って経験することが出来ました。

周囲の大人が児童のことを考えて行うことは、本当の意味で児童のことを考えているのか。入居してからどのような感情で過ごしているのかを知り、児童のための配慮をするには、児童の心情を理解することが必要であることを実感しました。

「ピピオの家」のスタッフとして働き始めて約半年が経ちましたが、未だ慣れないことばかりです。児童と関わり、児童の最善の利益について考えながら日々を過ごす中で、私自身も支援者として成長していきたいと考えています。今後とも、宜しくお願い致します。



7月7日の七夕の日、折り紙を使って七夕飾りをつくりました。たくさん短冊にお願い事を書きました。夢が見つかりますように、コロナがおさまりますように…等々

「はばたけ荘」スタッフのTです。

—行ってらっしゃい—

いつもの声かけです。玄関から出ていくまで見届け送り出します。小さな声でも「行ってきます」「今日はちょっと遅くなる」などと反応が返ってくると、今日は何とか頑張るなど、ちょっと安心します。こうして1日がスタートします。

現在(R2年10月)、4人の男の子たちが自立に向け生活しています。思春期青年期の子どもたちは、しっかりした言動をとる時もありますが、あれっ、何でできないのと呆れるくらい幼い考えや行動をとる事が多く、まだまだ未熟で不安定です。

この時期の男の子で最も困るのが、自分にとって必要なこと以外は話さないことです。明日の予定さえ知らせないこともありスタッフから聞かないと分からないことが多いです。

—俺、これでも焦っている—

どの子も自立のためにバイト・仕事をし、稼ぐことが絶対です。朝早くからバイトに出る子、夜

遅くまでバイトを頑張り帰ってきて、しばらくは夕食が食べられないほど疲れている子、土曜・日曜日にバイトをする子、本当に良く頑張っていると思います。

しかし、一人ひとりの子どもを見ますと現実には順調にはいきません。連絡をせず安易にバイトを休んだり遅刻したりすることもあります。バイトが長続きせず辞めてしまう子どももいます。前日の夜までは「朝〇時には起こしてください」と言うのですが、朝になると全く起きないこともあります。そんな時、自分のことは置いてバイト先の不満ばかり言って辞めてしまいます。

なんでもう少し頑張れないのか、自覚がないんじゃないかと思ってしまいがちになりますが、こんな気持ちは子どもに伝わるものです。「俺、これでも焦っている」とさりげなく話します。寄り添うしかないなと思います。

—孤立させない—

スタッフとして常に心に留めていることは、ここは子どもたちにとって大事な大事な居場所、安

全で安心できる場所、自立する場所であるということです。自立していく能力が十分でなくても自立を強いられた子どもたちです。失敗しても躓いても受け止め、決して孤立させてはいけないと肝に銘じています。

―伴走―

一人ひとりの旅立ちの時期は異なっても必ずやってきます。自分の力を信じて一步前へ進んで欲しいと願っています。子どもたちに伴走していきたいと思います。

ピピオ掲示板

寄付等のご協力ありがとうございました

児玉様、小武家様、井上様、こね森内科医院様、山口様、寺西様、片桐様、瀬戸様、米澤様、込山様、神田様、野口様、高橋様、藤原様、宗像様、津川様、寺川様、溝下様、野村様、山本様、山水様、佐伯様などから寄付金、生活用品等を頂いております。日々子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

生活用品の募集について

ピピオの家・はばたけ荘から一人暮らしを始める子どもたちへの生活用品の提供についてご協力をいただき、ありがとうございます。

現在、次の家電品・家具を募集しています。(家電品は製造から3年以内でお願いします。)

- ・冷蔵庫 (高さ110cmくらいまでのもの)
- ・洗濯機
- ・組立式のベッド

ご寄付でいただけるものがあれば、事務局までお知らせください。

事務局雑記

○ピピオの家には、ピピオの家で暮らすための約束事と一日のタイムスケジュールを書いたペーパーがあるのですが、文字だけの素っ気ないものだったのを、イラストの上手な子が可愛いイラストで飾ってくれました。その一部をご紹介します。この人(?)たちは、「ピッピー」というのだそうです。



発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル505号
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>